

## ◆ 今週のコメント

- インフルエンザの定点当たり報告数は23.57(1603例)で、前週 23.44(1594例)に比べ微増しています。年齢群別報告数をみると、0歳～14歳が全体の72.6%(1163例)を占め、冬休み期間が終了した第3週(平成26年1月13日～19日)以降、割合が上昇しています。  
また、今シーズンのインフルエンザ発生状況の詳細(年齢別・行政区別・都道府県別等)を下記に掲載しています。  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.27(11例)で、2週連続で増加しています。平成25年第51週(12月16日～12月22日)の1.71をピークに減少していますが、依然として過去5年平均値を上回る状態が続いています。

## ◆ 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

平成25年10月から12月末までの報告数は、AIDS患者 1例、HIV感染者 3例の計4例で、20歳代 2例、30歳代 1例、40歳代 1例で、男性 3例、女性 1例です。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 2例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例  
【1月以降の累積報告数 38例(肺結核 22例, その他結核 6例, 潜在性結核感染者 10例)うち喀痰塗抹陽性 11例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	23.57	1603
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.17	212
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.29	53
	③ 水痘	0.46	19
	④ 咽頭結膜熱	0.27	11
	⑤ 突発性発しん	0.24	10
眼科	流行性角結膜炎	0.80	8

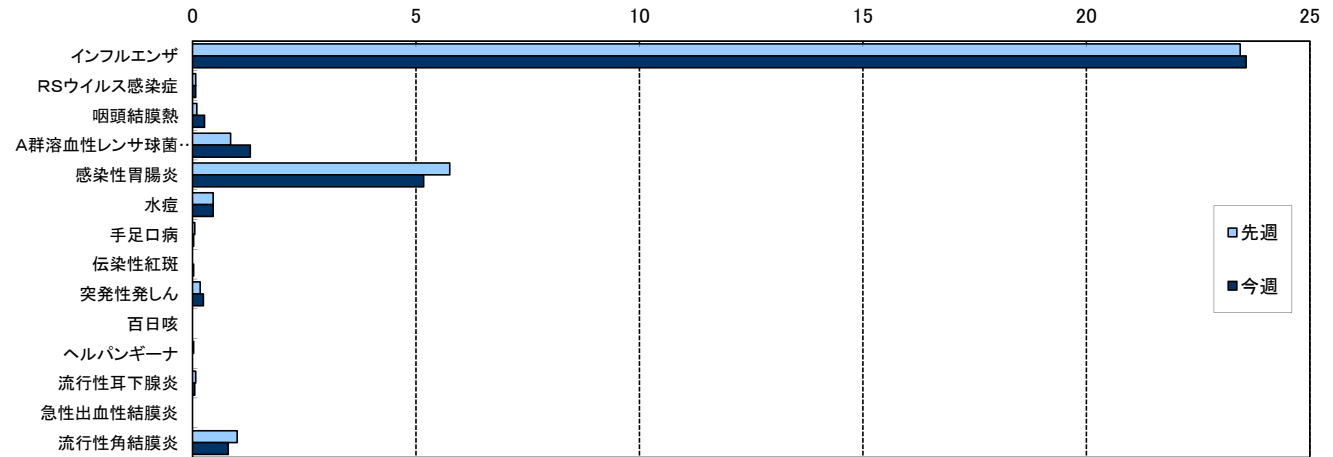
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <後天性免疫不全症候群>

(注)京都市のデータは、平成26年2月27日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

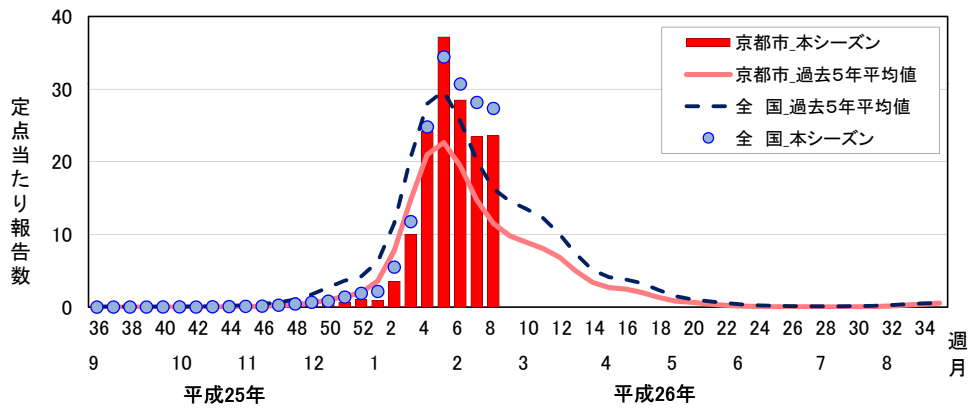
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第8週)と先週(第7週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第4週	1646
第5週	2529
第6週	1938
第7週	1594
第8週	1603
累積報告数 (第36週以降)	10515

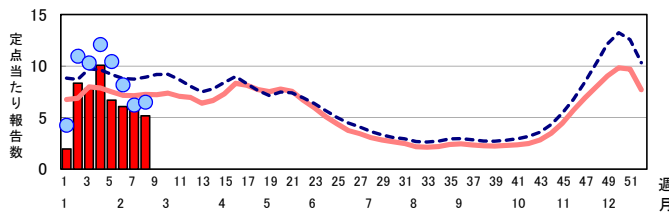


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

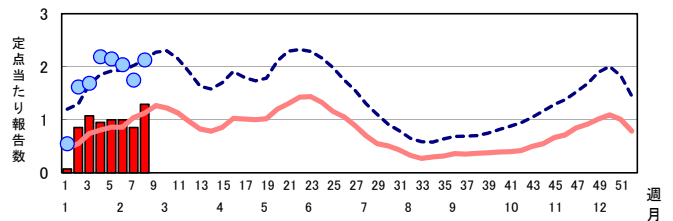
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

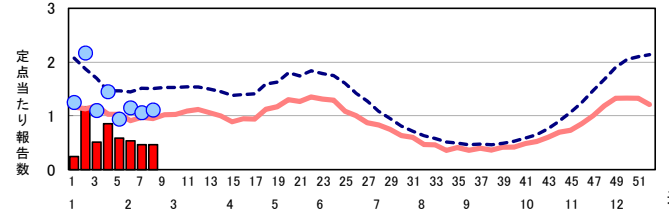
1 感染性胃腸炎



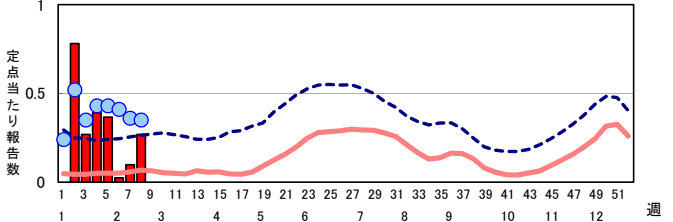
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 水痘

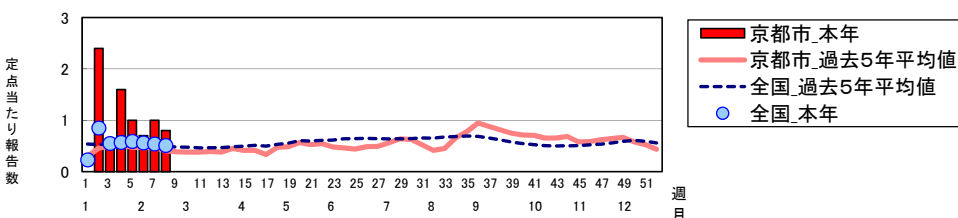


4 咽頭結膜熱



<眼科定点>

流行性角結膜炎



## 第8週(2月17日～2月23日)トピックス: &lt;後天性免疫不全症候群&gt;

平成25年10月から12月末までの報告数は、AIDS患者 1例、HIV感染者 3例の計4例で、20歳代 2例、30歳代 1例、40歳代 1例で、男性 3例、女性 1例です。推定感染経路はすべて性的接触(異性間 3例、異性間及び同性間 1例)となっています。推定感染地域は国内 3例、海外(タイ) 1例です。

平成25年における後天性免疫不全症候群の年間報告数は、AIDS患者 7例、HIV感染者 12例の計19例でした。男性 18例、女性 1例で、推定感染地域は国内 15例、海外 3例(タイ 2例、ハワイ 1例)、不明 1例です。

年齢階級別は、後天性免疫不全症候群全体では20歳代 6例、30歳代 7例、40歳代及び60歳代 各3例となっています。AIDS患者では20歳代、30歳代及び60歳代 各2例、40歳代 1例で、HIV感染者は20歳代 4例、30歳代 5例、40歳代 2例、60歳代 1例です。

推定感染経路は、性行為感染が18例(異性間 5例、同性間 11例、異性間及び同性間 2例)、不明が1例です。

平成12年以降の累積報告数は212例で、性別は、男性 197例(92.9%)、女性 15例(7.1%)となっています。推定感染経路は、性行為感染が167例で、後天性免疫不全症候群全体(212例)の78.8%を占めています。中でも、同性間の性行為感染が94例と最も多く、全体の44.3%を占めています。

## 年次別報告数の推移

報告年	総数	AIDS患者	HIV感染者	男	女
平成12年	6	3	3	5	1
平成13年	6	2	4	6	0
平成14年	9	4	5	8	1
平成15年	11	2	9	11	0
平成16年	21	2	19	18	3
平成17年	9	3	6	9	0
平成18年	25	8	17	23	2
平成19年	22	7	15	19	3
平成20年	21	6	15	18	3
平成21年	22	10	12	22	0
平成22年	17	6	11	17	0
平成23年	15	5	10	15	0
平成24年	9	4	5	8	1
平成25年	19	7	12	18	1
総計	212	69	143	197	15

## 推定感染経路別 年次別報告数の推移

